

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
075-753-5270
www.rakuyukai.org

「洛友会への今後の期待」

洛友会本部顧問 木村 磐根 (昭和30年卒)



あけましておめでとうございま

す。毎年1月号の巻頭言は長尾会長か支部長のどなたかがお書きになることになっていきますが、今回は木村が書くようにとの会長からご依頼を受けました、これまで長く関わってきた洛友会の今後への期待について述べてみたいと思いま

す。の頃からで、大谷先生、近藤先生の両会長時代から、現在の長尾会長に至るまで、随分長くなりました。それらの経験を今後に生かすことが期待されたのでしょうか、昨年6月の洛友会役員会で洛友会本部顧問を拝命いたしました。微力ですがお役に立てれば幸いです。

京都帝国大学に電気工学科が誕生したのは明治31年(1898年)であり、それから54年後の昭和27年(1952年)11月に同窓会組織「洛友会」が創設されました。本年平成28年は学科創設から118年、洛友会設立から64年が経過しています。初代洛友会会長の鳥養利三郎先生はこの同窓会発足時に「永い人生において人と人とのつながりほど大切なものはない」と述べられ、京都大学電気工学科の卒業生が縦および横のつな

がりを緊密に持つことの大切さを強調されました。その主旨は今も変わらないと信じていますが、特に洛友会の創設から64年の間には母校では大きな変化がありました。入学定員は50名から現在130名に、研究室の数も急増しました。また平成になって間もなく、大学院が組織の主となり学部が従となる大きな変革があり、キャンパスが宇治に加えて電気工学・電子工学専攻の大学院が桂に移転しました。その結果、教員および研究組織が地理的にも分散し、学部生は吉田の本部キャンパスで教育を受け、卒業研究および大学院教育は広範囲に分散する研究室で行われるという状況となっています。

- 同窓会組織としての洛友会の会員は、現在は学部の電気電子工学科の卒業生を核とし、学部在學生には学生会員となつて頂いてます。しかし前述のように、大学院教育は桂キャンパスで、学部卒業研究および大学院の研究活動は桂、吉田、宇治に立地する研究室で行われています。そのため64年前と比べると同じ研究室に属する学生同士は別として、同期生全体としての同窓の意識がどうしても希薄にならざるを得ません。しかし今後の洛友会の発展のためには当初の目標通りに、京都大学の電
- 気・電子系の広い分野で学んだ同窓生がお互いに旧交を温め、先輩・後輩のつながりでの情報交換の場を有効活用し、日本の産業の発展にも貢献できることの意義を再認識して頂きたいと願っております。
- 上記のように会員間のより密接な交流のために、全国の九つの各支部では支部長様や幹事様が大変なご苦勞をして種々の行事を開催され、各支部会員の親睦を図って頂いていますので、会員の本部並びに支部の行事等への積極的なご参加を期待しております。なお同窓会としての活動は上述のような、広い年代を通じた縦横のつながりに加えて、同期の方々のクラス会等の横のつながりや、卒業研究並びに大学院で所属した研究室の同窓会を通じての縦横のつながりも大変重要であります。特に同期の会については、学年によって事情が随分異なっているようで、数年毎に定期的に開催しておられる学年も多いのですが、比較的若い年代では、卒業以来10数年、同期の会を全く開催したことがないという学年もあるようです。前述のように卒業研究以後の研究活動の地域分散により同窓意識が希薄になっていくことが主な原因ではないかと心配しています。同窓会は勿論縦と横の連携が必要で
- | | |
|------------------|--|
| 本
部
幹
事 | 荒木光彦
佐藤亨
高岡義寛
引原隆士
和田修己 |
| 支
部
長 | 松山隆司
中山憲一
東成宮
中部安藤和史
中国松井三生
四国今岡幹典
九州深堀慶憲
北陸葛原正明
東北井上茂
北海道澤井秀 |
| 本
部
役
員 | 顧問 木村 磐根
会長 長尾 真
副会長 安田 豊
西 亨
松山 隆司 |

迎 春
二〇一六年一月一日

が、その核となるのは同期生の絆です。学部教育の期間には色々な教室行事を洛友会も後援して行っています。その機会に洛友会とも連携する各学年の幹事を決めて頂いているとお聞きしています。学部の間定着した幹事さんを核として、卒業後すぐとは申しませんが、同期の会を是非定期的に開いて頂くこと、また同一研究室の縦横の会もできるだけ開催して頂き、横の連携、および縦横の連携を定着させて頂けるようお願いしたいと思えます。洛友会報にも、それらの記事の投稿を歓迎しています。洛友会報については、最近特にご投稿頂く原稿数も増え、毎号大変読み応えがあり楽しんでいます。この会報を大いに活用して下さい。

なおこれらの活動には会員の名簿が必須であります。洛友会本部事務局は卒業生の住所や職場等の最新情報を維持・管理するという重要な役割をしております。ただ平成15年に個人情報保護法が制定されたため、ご本人の承諾なしに現住所や職場の情報を名簿に掲載することができない事情があり、名簿の充実に支障をきたしております。事務局としては情報の管理にも十分注意を払っていますので、連絡先の変更のお知らせには是非ご協力をお願いいたします。

一方、周知のように情報化社会が進み、紙ベースでの情報交換から、インターネットを主体とした情報交換の社会となりつつあります。洛友会も紙ベースでの名簿をなくし、すべてインターネットでアクセスする方向に進めようとしております。現状ではインターネットを活用されない会員もおられるため、当面は紙の名簿も印刷することにしてはいますが、名簿の登録や更新も会員が各自洛友会のホームページから行っていた方向に進んでいて、一部の方々にはご不便をおかけしております。しかしこのことは同窓会の事務経費を抑え、安定した洛友会の維持にもつながりますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

また、洛友会最新情報をホームページに掲載しており、資料庫のページから過去の会報や情報誌CUEのバックナンバーのすべてをPDF版で読むこともできます。同期の会のブログページも開設できます。このことは洛友会の本部・支部と会員の距離を近づけることにも役立っています。各会員のパスワードでログインすることですべての会員の情報閲覧ができ、会費のクレジットでの振り込み等も可能となっております。私がこれまで洛友会本部に関

わって参りました間に、本部としては会員各位から頂く年会費(会則では本部3000円、支部1000円)から本部としての使用分を節減して、各支部には支部会員一人当たり1500円をお送りするようにして支部活動を強化して頂いています。本部としては電気系事務室内に本部事務局を置き、上述のような多岐にわたる業務を、事務局長、幹事長以下、全ての幹事及び唯一の事務職員である山田美津紀さん達の奮闘で、何とか定常的に進められるような体制に整備ができてホッとしております。ただ現時点でなお杞憂しています。ただ現稿の中で述べましたように、会員の皆様の間の絆を強化するという本来の役割を如何に維持していくかという点であります。どうか会員諸氏のご理解とご協力を心からお願ひし、また洛友会発展のための良案を是非本部にご教示頂けることを期待しております。

教室だより

平成27年度電気系教室

懇話会報告

平成27年度電気系懇話会が教員、学生、ならびに卒業生他約90

名の参加を得て、11月6日(金)に、電気総合館大講義室で開催された。講演会に先立ち電気電子工学科長の引原隆士教授が懇話会の趣旨等に関する挨拶をされた。その後講師にお招きした、中村行宏名誉教授、手柴充博氏(平11年卒)、安部川信氏(昭50年卒)のお三方により、非常に興味深い講演を頂いた。ご講演の概要は以下の通りである。

「ものづくりに思う」

中村 行宏 名誉教授



中村先生が長年取り組まれたプロセッサの論理設計のご紹介に始まり、日本のものづくりの将来について、従来の成功モデルの分析、各国の戦略などを交えながらご講演頂いた。

かつてのプロセッサ設計は論理回路レベルで行われ、アルゴリズムレベルでの設計検討を行うことが困難であった。このような状況で、先生はよりアルゴリズム指向で設計を行うことができる環境として「PARTHENON」を開発され、

迎春
二〇一六年一月一日

京都大学

電気関係教室

教員一同

株式会社 SCCC

代表取締役社長 松尾 泰

宇宙技術開発株式会社

代表取締役社長 松尾 泰

電子開発学園
北海道情報大学

理事長 松尾 泰

迎春
二〇一六年一月一日

これまでのメーカーが半年ほどかけて設計していたプロセッサを4人・4日間での設計を実現し、実際にチップの製造まで実現できたことを紹介された。また、このアルゴリズムレベルで設計し、論理合成によってRTL記述などを生成するアプローチは、その後のプロセッサ設計の主流となったことが紹介された。

またこのようなプロセッサ設計はCPUだけでなく画像処理プロセッサにも応用され、ハリウッドなど映像制作者に対して2K映像のデモを行い、従来のフィルムを用いたアナログ映像制作からデジタル映像制作への転換を促す活動を行われたことが紹介された。

引き続きこのようなプロセッサ設計開発のご経験を交えながら、第4次産業革命と呼ばれる近年の製造業を取り巻く世界の新たな潮流として、工業化社会から情報化社会になるにつれ、MITのKevin Slavinが「第3の存在」と言い表したアルゴリズム/ソフトウェア技術こそが重要な鍵であることをIoTを例に挙げながら解説いただいた。アメリカやドイツなどがそれぞれの強みを生かした新たな成功モデルへと移行し始めている中で、日本がこれまでの少品種大量生産によるコストカットを強みとしたモデルから、いかに

して新たな方向を見出すべきかが重要であるというお話が大変印象的であった。

最後にこのような社会構造の変化の中で、研究者は近視眼的な価値観にとらわれることなく、真に社会に貢献する研究・教育とは何かを意識しなくてはならないという強いメッセージをいただいた。

「天気と電気を仕事に！ Interdisciplinary Research and Development for New Business」

手柴 充博 氏
(株) ウェザーニューズ



日頃お世話になっている気象予測について、ご自身の学生時代からのご研究も含めて分かり易くご講演頂いた。

まず、京都大学大学院時代の「研究内容」を紹介頂いた。1999年に大規模なX-B A I U-99観測プロジェクトが実施され、観測器を設置した気球を飛ばす等の実験が行われた(2002年まで継続)。主として梅雨前線を観測

するプロジェクトで、特に九州西部の気象観測が行われた。当時は、オープンリールで観測されてお

り、その取り換え作業が重要な仕事の一つであったことなど、歴史を感じさせる興味深い出来事を御紹介頂いた。プロジェクトでは、生存圏研究所の故深尾昌一郎名誉教授や橋口浩之准教授が参画され、Sバンドレーダーや境界層レーダーを用いた観測が行われ

た。また、局地的気象監視システム(WINDAS)で台風の観測を行い、台風の目の内部に下降流だけでなく上昇流も存在しているなど、重要な発見があった。

次に、オクラホマ大学のAdvanced Radar Research Center(「AR」)研究された内容を紹介頂いた。オクラホマ州は、竜巻が多く発生する場所として有名である。同センタは、「メソスケール気象学」のメッカとして、竜巻・集中豪雨といった現象について、理論・数値モデル、観測、工学応用など多角的に研究されているとのことであった。また、同大学の敷地内にはNational Weather Centerやブライベイトカンパニーなどもあり、気象学に関して産官学の取り組みが行われている。一例として、二重偏波ドップラーレーダーとウィンドプロファイラーを組み合わせて大気の動きを直接観測するご研

究をご紹介頂いた。本研究によって、大気の時発展を理解することが可能になる。

さらに、現在「所属されているWNI(Weather News Inc.: 株式会社ウェザーニューズ)の活動の一端をご紹介頂いた。航空機他の動態管理システム「FOSTER Copilot」は、GPSで現在位置を把握し、イリジウム衛星回線を通じて地上へ情報伝達するシステムである。同システムでは、航空機の動

静把握、高度な運行管理、災害時の統制管理、および業界内の情報共有が可能である。現在は、コスト的に導入が難しかった小型機の動静監視にも取り組まれている。また、津波を観測・捕捉する

「TSUNAMI radar」についても御紹介頂いた。津波発生の早期伝達や被害軽減のために、全国30か所に設置されているとのことであった。さらに、北極海航路(スエズ運河経由の約2/3、喜望峰経由の約1/2)の航路であり、海運業界にとって魅力的であるが、安全運航に必要な海水の情報提供が必要)への取り組みや、あるいは気象レーダー利活用(全国に80か所設置; 航空機レーダーを含む)の現状についてもお話頂いた。最後に、低価格センサーや超低価格センサー(例えば、鳥・虫のような形状; ルンバのように自ら飛び出

迎春

二〇一六年一月一日

公益財団法人

京都技術科学センター

(旧財団法人近畿地方発明センター)

理事長 宇山 親雄

公益財団法人

応用科学研究所

鐵 田中プリント

して観測して戻ってくる他の特長)実現に向けた取り組みについても、大変興味深い研究開発内容を御紹介頂いた。

質疑の際に、気象学に興味のある学生さんからも熱心な質問があり、私達の日常生活でお世話になっている気象予測やさらには災害時支援などについて、大変貴重な興味深いご講演であった。

「関西国際空港におけるエネルギーシステムについて」

安部川 信 氏

(新関西国際空港(株))



私たちが日頃利用している関西国際空港・伊丹空港を運営している新関西国際空港株式会社の安倍川信専務取締役にお話しを頂きました。

初めに、世界の航空需要、そのなかでの関西空港の概況についてご説明頂きました。世界の航空需要は、アジア太平洋地域を中心に増大しており、2030年には、アジア太平洋地域が最大の航空市場になるという予測を示されました。これは、同地域の間所得層が拡大し、旅客需要が増加するだけでなく、貨物取扱量も増大するためです。それを背景に、各国はハブ空港の利便性強化に国家的に取り組み、着実に旅客数・貨物量の双方が大きく伸びている中で、日本の各空港は発着容量の強化に努めているという話がありました。

空港を利用する航空会社側の変

化としては、なんとと言ってもLCCの台頭です。これもアジア太平洋地域の旅客需要の拡大に貢献しており、日本でも2012年から普及が拡大しておりますが、東南アジアに比べると旅客シェアはまだ小さく、これからさらに拡大していくはずで、関空でもターミナル3の建設を計画しているそうです。

関空から多くの都市に就航している中国の観光客の動向について、興味深い話を頂きました。日本を観光する場合、関空から入国して、成田から出国するパターンが多いと言う事と、内陸部からの新規就航が目立つことです。これは、成長著しい中国の某LCCが強力にプッシュしており、その理由というのが、内陸部からの旅客は親戚中からお土産をたくさん頼まれるからだそうです。インバウンドに関してボトルネックになっているのは、ホテルと観光バスで、これが解消されれば、いくらでも観光客を連れて来ることができると中国側は豪語しているそうです。そのような中で、2015年夏ダイヤで週1100便を超える就航を達成し、年間旅客数は過去最高の2050万人を超える見込みのようです。東南アジア・欧米路線も拡張しており、北米への直行便が復活しつつあります。貨物

に関しては、最近フェデラルエクスプレスの北太平洋地区のターミナルが建設されたが、これは韓国のインチョンと争っていて、土壇場で逆転して勝ち取ったそうです。

質疑応答で、どのような人が空港会社での勤務に向くか、という質問が学生からありました。これに対し、安倍川氏は「周りには飛行機が好きなのが多いです。私はそうでもありませんが。」というお答えで、会場がとても和みました。津波の時には、数メートル高い2期島に避難するということを付け加えられました。

懇親会では、関西電力京都支店長時代の話もお聞かせ頂き、楽しい時間を過ごすことができました。講演会終了後、北部キャンパス生協食堂2Fで100名以上が参加して懇親会が開催されました。司会は工学研究科電子工学専攻の竹内繁樹教授が務められました。長尾眞路友会会長にご挨拶頂き、合わせて乾杯の挨拶とご発声を頂きました。中締めとして黒橋禎夫教授からのご挨拶を頂き、その後名残を惜しみつつも、時間の関係で解散しました。

会員寄稿

宮崎に暮らして

田中 仁志

(平22年卒・九州支部)



現在私は電力会社に勤務し、宮崎県の都城市に住んでおります。

佐賀出身の私が縁もゆかりもない都城に足を踏み入れたのが、今から5年前。まさかこの土地でワールドカップを2度見ることになるとは思っていませんでした。人並みに年齢を重ね、趣味のフットサルでは頭と体の動きが異なることが多くなり、二十歳前後の若者にコテンパンにやられるという毎日です。その他の趣味としては地元サッカーチーム「サガン鳥栖」の試合観戦でしょうか。2011年J1に昇格してからのわかサポーターですが、未来の日本代表候補鎌田大地選手、日本有数のサッカースタジアムベストアメニティスタジアム(鳥栖駅目の前

にありアクセス抜群)、おいしいスタジアムグルメなどなど、見どころ食べどころたくさん。仕事にプライベートにあくせくやっておりますが、大学卒業時と変わらないう体重こそが若さの証だと信じ、日々体重計に乗っては一喜一憂すると言うOLのような生活を過ごしております。いつか来ると信じる幸せな結婚を夢見つつ、ニヤニヤしながら床につくと言う習慣も紙面だからこそ言えることです。

さて、今回は皆様にとっても縁もゆかりもないであろう私の第二の故郷「都城」についてご紹介したいと思っております。宮崎県都城市。人口16,960万人、面積653.8km²。南九州第3の都市(熊本県除く)。位置は宮崎県の南西部にあり、東に鰐塚山系、北西に高千穂峰を仰ぐ広大な盆地です。夏暑く、冬寒さが厳しく、昼と夜の気温差も大きいという環境のもと冬は出勤前のフロントガラスの解氷が日課となっています。

また、南は鹿児島県に接しており、都城の方言は宮崎県にありながら、8、9割が鹿児島方言と同一のものであります。私が都城で初めて聞いた方言は「てげてげ」という言葉。街のいたるところに「てげてげ運転追放」というのぼり旗が立っていました。「てげてげ」

は「いいかげんな」と言う意味らしく、てげてげ運転追放は宮崎県警のスローガンにもなっています。その他にも「だからよー」という謎の接続詞(感嘆詞?)が頻繁に使われ、この言葉の多面的な使い方に困惑する場面多々あり。言い換えれば「そうなんだよ」くらいの言葉ですが、承諾や肯定やあいづちや驚きなど様々なニュアンスが含まれており、現在のところなかなか使いこなせていません。産業においては、畜産が盛んで牛、豚、鶏の産出額は全国でもトップクラスです。2010年度に発生した口蹄疫の影響は今なお残り、私たちの仕事でも畜産農家の方の敷地内に立ち入る際は、事前連絡、消毒、防護服の着用などかなり気を使って対応しております。口蹄疫の際は、県内で牛、豚の約20〜25%が殺処分になり、経済損失額は2350億円と試算されました。当時市内では主要道に消毒ポイントが設けられ、消毒マットや消毒槽により口蹄疫の拡大を防ぐための措置が取られておりました。

2011年には、享保の噴火(1716年〜1717年)以来約300年ぶりに新燃岳が大噴火し、都城市を含め、県内、県外に大きな被害をもたらしました。噴火によって火口から噴出した火山

灰は上空で風に乗り広範囲に広がり、都城市でも新燃岳近くの町では厚さ6cm以上の噴石や火山灰が広く堆積しました。水を含んだ火山灰は滑りやすくなるだけでなく、そのものが重くなることで建物等にも影響を与えます。当時は多くのボランテアの方に降灰の除去に来ていただき、私自身警学校の運動場の灰の除去にボランテアに行つて参りました。噴火時はこぶし大の噴石が10数キロの範囲まで到達する可能性があるため、当時登下校の小学生はヘルメットを被っていたことをよく覚えています。2013年には噴火警戒レベルが引き下げられました

が、未だに火口から半径1キロメートル以内立入禁止となつており、注意と警戒が呼びかけられているのが現状です。災難続きの都城ですが、実は夏の間1か月間毎日といつていいくらい花火が打ちあがります。これは六月灯というお祭りが行われているためで、この祭りは旧鹿兒島藩領内において無病息災と五穀豊穰を祈るためのものでした。今では毎年7月上旬から約1ヶ月間にわたり、各地区にあるお社から大きな神社にいたるまで100カ所以上の会場で、毎日のように開催されています。ちなみにこのお祭りをテーマにした「六月燈の三姉妹」という映画が昨年公開されて

います。夏の間、毎日のように部屋の窓から花火が見えるのは贅沢なものです。どうでしょうか。私の住む街都城について少しは興味を持つてもらえたでしょうか。他の大都市と同じく人口の減少、若年層の人口流出、高齢化が進んでいます。自然豊かな環境、温和人柄など大変住みやすい街でもあります。機会があれば是非この土地にいらつしやう。ゆつたりとした時間を過ごされてみては。おいしい地鶏と焼酎がみなさんを迎えてくれると思います。

「なんか運動始めなあかんなあ」と思ったのはちょうど3年前の平成25年の正月のことでした。きっかけは血圧で、30歳を過ぎたところから高くなってきており、会社の健康診断のチェックにひっかかるようになってきました。

神戸マラソン体験記

糸谷 亮祐

(平13年卒・関西支部)



当時行っていた運動と言えば、人に誘われて年に3〜4回ラウンドする程度のゴルフでしたが、ラウスし、費用もそれなりにかかってきます。そこで着目したのがウェアとシューズさえあれば気の向いたときにできるランニングでした。走ることが義務になると長続きしないように思いましたので、週1回を目安に、走りたくないときは走らないことにし、最初は3km程度から、徐々に距離を延ばして1年経つ頃には7〜8km程度走るようになっていました。無心で走っているといいストレス解消になりましたが、2年目になると何か目標が欲しくなり、マラソン大会にエントリーしようと思ひ立ちました。各地で市民マラソン大会が開催されていました。が、どうせ走るなら馴染みのある場所のほうが頑張れるのではと思ひ、地元の神戸マラソン、大学時代を過ごした京都マラソンにエントリーしましたが、この年は残念ながらどちらも抽選に漏れ、参加することは叶いませんでした。ちなみにランニングの距離は徐々に延び、このころには最長で20kmを走ることもありました。そして3年目を迎えた平成27年、神戸マラソンに当選することができました。春に一度40km走

チャレンジしましたが、30km程度で足が動かなくなりリタイアしており、フルマラソンの距離を走ることのないまま11月15日の開催当日を迎えることになりました。約2万人のランナーがエントリー時に申告した走破予想時間を元に並んでおり、5時間でエントリーしていた私はA〜Hのブロックのうち、Dブロックに並んでスタートを迎えることになりました。スタートセレモニーが終わり、9時にスタートの号砲が鳴りましたが、Dブロックは一向に動き出さず、配がありません。ようやく動き出したと思つても歩く程度で、スタートラインに到達した頃には号砲から7分程度が経過していました。タイムはゼッケンに貼り付けられたチップにより、号砲からゴールまでのグロスタイムとスタートラインからゴールまでのネットタイムが計測されるのですが、公式タイムはグロスタイムであり、5時間でエントリーしながらも内心狙っていた私は、スタートラインまで7分もロスしたことに焦りました。スタートしてからも多くのランナーでコースは混雑しており、全く自分のペースで走ることができません。ようやく人がバラけてきたのは4kmを過ぎた頃で、グロス

タイムで4時間を切るためには相当飛ばして走らなければならぬという状況でした。

それでも、自分のペースで走れるようになってきたところからは、走ることが楽しく感じられるようになり、快調なペースで折り返し地点の明石海峡大橋を目指しました。沿道からいただく応援もとても励みになりました。

そして折り返し地点の直前に、ついにグロスタイムで4時間を目安に走っているペースメーカーに追いつき、目標の4時間切りが見えてきました。ちょっと飛ばしすぎかな、とも思いましたが、まだ余裕がありましたので、後半にバテることを想定して少しでも貯金をかせごうと思いい、ペースメーカーを抜き去って復路に入りました。

ところが25km地点を迎えるころ、突然足が動かなくなってきました。30kmの壁ともいわれるエネルギー切れと思われました。40km走にチャレンジしてリタイアしたときもエネルギー切れが原因とわかっていましたので、スタート前に炭水化物を多めに摂取したり、途中の給食ポイントでバナナなどのエネルギー源を補給しつつ走っていたのですが、最初の遅れを取り戻そうと飛ばしたのが仇になったようです。

歩くことなく完走したいと思っ

ていましたが、それも諦め、ふくらはぎのストレッチなどをしながら何とか前に進んでいきましたが、30kmの手前で4時間のペースメーカーに抜き去られ、その後も給水ポイントの度に歩くなど、グロスタイムの4時間切りは絶望的、ネットタイムでの4時間切りも難しいという状況でした。

せめてエントリー時の5時間切りは達成しようということで、我慢しながら前に進んでいたところ、35km地点に妻と息子が応援に来てくれました。姿を見つければ数分立ち止まって「しんどいわ〜」などと話しているうちに元気が出てきて、少しペースを上げて走れるようになりました。応援の力を感じた瞬間でした。

神戸大橋の上り坂もなんとかクリアし、ポートアイランドに入るとようやくゴールが近づいてきたと感じる頃、両足にできていたマメがつぶれ、指先に激痛が走りました。ただ、もうここまで来たらリタイアするのにもつたいないですし、家族の応援にも応えたいと思いますので、走ったり歩いたりを繰り返しながら前に進み、ようやくゴールを迎えることになりました。

初マラソンの結果は速報タイムで4時間24分40秒(ネットタイムでは4時間17分34秒)で、目標と

していた4時間切りを果たせず悔しい結果となりました。

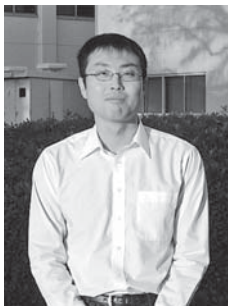
完走して数日間フルマラソンは2度と走りたくないと思っていたのですが、不思議なことに1週間も経つと次は4時間切れるかもと思い、来年に向けてまた走り始めました。神戸マラソンに当選したので、京都マラソンにはエントリーしなかったのですが、今はそれを後悔しているくらいです。神戸マラソン、京都マラソンとも年々抽選倍率が高くなっているようなので、走れるかどうかわかりませんが、4時間を切れるまでは挑戦し続けようと思っています。

ちなみに、ランニングを始める本来の目的であった血圧を下げるという目標については残念ながらもあまり改善効果が見られていません。

石川の宣伝

高辻 悠

(平19年卒・北陸支部)



今年の3月14日ついに北陸新幹線が開業し、これにより東京〜金

沢間が最短2時間28分で結ばれることとなりました。この新幹線効果で、金沢駅はかつてないほどの盛り上がりを見せています。またNHKの連続TV小説「まれ」が放送され、その舞台である能登地方にもスポットが当てられました。このように、石川県は大きな注目を集めています。しかし私たち石川県民は、この北陸ブームを一過性のものとしないうる努力していかなければなりません。そこで、今回は石川県の食文化について紹介し、皆さんに石川県への関心を深めていただきたいと思います。

とその前に、まずは今年話題となった北陸新幹線についても紹介しておきたいと思えます。北陸新幹線には複数の運行形態があり、東京〜金沢間では、最速で到着する「かがやき」と各駅停車タイプの「はくたか」、あわせて1日に24本の便が運行しています。私も何度も利用していますが、特急はくたかと上越新幹線を乗り継いでいた頃と比べると、非常に快適です。なお、はくたかには自由席があります。かがやきは全車指定席となっています。注意が必要です。また特別車両であるグランクラスも備え付けられています。グランクラスでは北陸の日本酒が飲み放題ということなので、特急券

代の元を取る自信のある方はチャレンジしてみるのも良いかもしれません(私もまだ乗ったことはありませんが……)。

新幹線により関東方面からのアクセスは非常に便利になりましたが、関西方面からのアクセスも負けてはいません。以前より関西と北陸をつなぐ手段として利用されているサンダーバードですが、京都〜金沢間を2時間強、大阪〜金沢間を2時間半程度で、乗り継ぎなしで移動することができます。和倉温泉までの便を含めると、1日に23本の便が運行しており、こちらも利便性は十分と言えるでしょう。ただし北陸新幹線が福井まで延伸された場合、関西からの移動手段がどうなるのか(特に敦賀〜大阪のルート)は、まだはっきりとわかっていません。そういった意味では、関西から最も行きやすい今のうちに石川に来ていただくことをお勧めします。

それでは、石川県の食べ物について紹介したいと思います。石川の食と言えば、やはり海の幸です。代表的なものは、のどろや寒ブリ、甘エビや香箱ガニなどがあります。石川県には金沢港や橋立漁港などの漁港が多くあり、県内の各所で新鮮な魚介類をいただくことができます。寿司や刺身、海鮮丼など、生で食べる際にその美味

しさが際立つと思います。金沢市内で手軽に海の幸を味わえるところとしては、金沢の台所とも呼ばれる近江町市場が有名です。ここでは海鮮丼を出す店が多くあり、店ごとにネタの種類や量が違ったりするので、いろいろと見比べてみるのも良いと思います。

なお、香箱ガニはメスのズワイガニのことを指し、体はオスに比べて小さいですが、その卵やカニ味噌には旨みが凝縮されており、とても美味しいです。しかも価格が安いので、地元の人も好んで食べる食材です。食べ方としては丸ごと茹でることが多いですが、一部のお寿司屋さんでは身と卵を贅沢に盛り付けた軍艦巻きを出してくれるところもあります。他ではなかなか食べることはできないと思いますので、是非一度食べてみてください。

また、石川県のお土産として欠かせないものが和菓子です。金沢は京都や松江と並ぶ菓子処で、きんつばや最中、水飴や落雁など様々な種類の和菓子が作られています。有名どころで言えば、日本三銘菓のひとつである森八の長生殿、俵屋のしろあめや柴舟小出の柴舟などがあります。京都の和菓子とは違ったものがたくさんありますので、京都の人も楽しめると思います。

その他、石川県にはB級グルメも数多く存在します。その中で最も有名なのは金沢カレーでしょう。最近ではチャンピオンカレーやゴーゴーカレーが全国的に店舗を展開しているため、その知名度も徐々にながら上がってきていると思います。一般的なカレーに比べて濃厚でドロツとしたルーと、たっぷり千切りキャベツがついている姿は、初見の人にはインパクトがあるかもしれません。個人的には、地元の小松市に本拠地がある「カリーの市民アルバ」がお勧めです。

関東や関西にも出店しています。是非石川県で、できれば小松本店で満塁ホームランカレー生玉子トッピングを食べていただきたいと思っています。

それ以外にも、金沢にはハントンライスというケチャップライスの上に薄焼き卵と白身魚フライをのせた料理もあります。要はオムライス+フライといった感じで、見た目のとおりボリュームがあるので、空腹時でもかなり満足できます。白山市の方にはTKGならぬTKGY（卵・かけ・ごはん・焼き）という謎の料理があります。その名のとおり卵かけごはんを鉄板の上で焼いたもので、見た目は好み焼きのようですが、食べてみると違った食感が味わえます。ネタつばいの普通に美味しいと

いう、B級グルメの見本とも言えるような料理なので、こちら是非食べてみてください。

またB級グルメとは少し異なりますが、北陸一帯に店舗を構えている8番らーめんにも触れておきたいと思います。8番らーめんはいわゆる普通のラーメンチェーン店ですが、CMで「なんでやる8番」と言っているように、何故かときどき食べたくなる謎の魅力があります。一般的に石川県民が生まれて初めて食べるラーメンはこのお子様らーめんなので、その味が心と体に刻まれているのでしよう。ちなみに、このラーメンは野菜がたっぷりヘルシーなので、高齢者の客が多いのも特徴です。そんな石川県民がゆりかごから墓場までお世話になるラーメン、石川で何を食べようか迷った時に、選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

同窓会だより

昭和33年卒

電気・電子同窓会報告

昨年の横須賀地区に続いて、本年は姫路で、10月22日、平成大改修成った国宝姫路城、翌日10月23日は同窓の松本紘先生/前京大総長が理事長をしておられる理化学研究所の放射光施設スプリング8、白鳥城などで知られている太陽公園を見学した。

姫路城は休日などには1万人近くの人を押しかけ、入城には数時間待ちとのことであるが当日は週日とあって、スムーズに入城、登閣できたが、ボランテイガイドの方の詳しい説明に時間を喰われて、当初予定していたすぐ隣にある、お城を背景とした名庭園、好古園の見学は残念ながら今回は諦めざるを得なかった。

その後の日航ホテル姫路での宴会では、最も遠くから馳せ参じた北海道の中山君の乾杯に続いて、各自の自己紹介、その後、例年通り、町田、小山君のキーボード奏者などの役者が揃い、全員で琵琶湖周航歌、三高寮歌など10曲を歌い上げて、ホテル側宴会担当者が感心するほどの盛会であった。

翌朝は貸切バスにて、姫路の西

方の新宮町にある理研の放射光研究施設スプリング8に向った。今回は、見学担当者のご厚意でバスに乘車のまま、スプリング8の加速リング外周、直線加速器SACLAの外周を説明付きで見学できて、設備の規模の大きさを実感した。続いて、会議室にて、ビデオにより施設、研究の詳細説明を伺った。特に、前政権時代に予算圧縮を狙って、ある女性議員がカミオカンデと当所スプリング8の設備、研究成果について、何故1番でなければいけないのか、2番では駄目なのか、などと言いつつビデオは最近の梶田隆章氏のノーベル賞受賞とも絡めて、研究所の意欲が感じられ、印象的であった。ビデオを見たあと、周囲に設けられている一般見学者用覗き窓からではなく、全員が各設備の中に入れて戴き、主要ビームの使用状況など、詳細を見学、聴取し、世界的レベルの研究の内容がよく理解できた。

続いて、帰路にある太陽公園へバスにて移動、名物の豪華昼食の後、ドイツ国政府が建設に全面的に協力したバイエルン州の世界文化遺産、白鳥城(ノイシュヴァンシュタイン城)の原寸大が山上にそそり立つ「城のエリア」、兵士などの石像千体以上の兵馬備/秦の始皇帝の陵墓、天安門、万里の

長城、ピラミッド、モアイ石像など石の建造物を集めた「石のエリア」を見て回った。いずれも、浮世離れをした手の込んだ見事な芸術的な作品群であり、深く感動させる作品群であった。

今回は姫路城も含めて急坂、急階段なども多く、我々後期高齢者には、かなり厳しい行程ではあったが、全員無事、全ての予定をこなし、JR姫路駅にて解散し、それぞれ故郷へ向った。次回は教室見学を含めて、京都地区開催を予定したいとの話があった。

喜利君撮影の太陽公園の山上にそそり立つ壮大な白鳥城前での集合写真を添付します。

潮崎安弘、河村吉久 記



支部だより

関西支部家族見学会報告

平成27年10月24日(土)に関西支部において、恒例の家族見学会を開催しました。

当日は清々しい秋晴れに恵まれ、朝方は多少冷えましたが、日が昇るにつれて気温もあがり絶好の行楽日和となりました。

当日は、合計78名の方にご参加いただき、福井県永平寺町の「永平寺」、及び福井県勝山市の「福井県立恐竜博物館」を巡りました。

JR大阪駅に集合後、バス2台に乗り込み、最初に永平寺へと向かいました。事前に特別案内をお願いしていたため、一般には公開されていない範囲を含め、修行僧の方にご説明をいただきながら境内を拝観させていただきました。

建物や装飾にまつわる、修行僧の方によるユーモアを交えたご説明にみなさま強く興味をもたれたよう、時折質問を織り交ぜながら熱心に説明に聞き入っておられました。

昼食は永平寺門前町の「山伏」にて、永平寺名物「ごま豆腐」を含む精進料理を堪能していただき、食後の短い時間でしたが、お買い物も楽しんでいただきました。

午後からは引き続きバスに乗り、福井県立恐竜博物館へと向かいました。恐竜の化石だけでなく、マンモスなど古代生物の化石や鉱石が多数展示されており、皆様童心に返つたように目を輝かせてたくさんの方の展示物に見入っておられました。

その後、バスに乗り本日の訪問地の話で盛り上がりながら一同、帰途につきました。

遠方への移動であったため、若干慌しい行程となりましたが、参加者の皆様のご協力もあり、行程は往路・復路とも全て順調に進み、訪問地の天候にも恵まれ、充実した1日を過ごすことができました。

糸谷亮祐(平13年卒) 記



第104回関西支部ゴルフ競技会報告

〈プレー状況〉

第104回関西支部ゴルフ競技会が平成27年10月17日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は天候にも恵まれ、アウトは福川氏(昭和30年卒)、インは伊藤氏(昭和34年卒)の始球式でプレーを開始し、合計22名(うちシニア9名)が競技に汗を流されました。

結果は以下のとおりです。

〈シニアの部〉

- 優勝 細田 純一郎 (S36年卒)
2位 北野 徹 (S44年卒)
3位 伊藤 俊一 (S34年卒)

〈一般の部〉

- 優勝 島岡 正憲 (S52年卒)
2位 小林 千彰 (S49年卒)
3位 西田 篤史 (H63年卒)

〈懇親会〉

プレー終了後、西田氏(S63年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。

表彰式では、優勝者に景品および優勝カップが手渡されたあと、優勝報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

〈お知らせ〉

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。次回は平成28年5月21日(土)を予定しております。若い方も含めて、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

〈連絡先〉

西田 篤史 (S63年卒)
谷口 充展 (H21年卒)
連絡先 050-7104-1202

(谷口)
taniguchimitsunobu@ds.kepc.co.jp



第104回 関西洛友会ゴルフ競技会 参加者集合写真

訃報

Table with 2 columns: Name and Date. Includes names like 昭22 重永 実 (27.7.28), 昭30 小塚雄一郎 (27.11.21), etc.

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。